

千葉工務協議会 第33回定期委員会開催

3月20日(土)13時～千葉工務協第33回定期委員会が千葉地本会議室において開催された。最初に昨年7月27日にALS(筋萎縮性側索硬化症)で亡くなられた当分会の大和田さんに対し、1分間の黙祷を捧げた。その後、永野副議長の開会挨拶で始まり、委員会議長には千葉土木分会の土屋憲一さんが選出され、議事進行した。

最初に千葉地本井村委員長が「定期昇給が係数2という形で半分しか上げないという今までにない回答が出された。労働組合の必要性を訴え、組織拡大に結び付けよう」と挨拶。続いて、森田工務協議長からは「閑散線区では協力会社が軌道工事管理者と線閉責任者を兼務で『線路内責任者』として工事を施工している。要員不足で仕事が回らない実態だ。私の職場では2年目の若手が退職に追い込まれた。原因は対人間関係だった。労働組合未加入で相談相手がいない状況だ」と挨拶された。

その後、2019年度決算・会計監査報告・2020年度予算案や海後事務長が方針案を読み上げた後、討論に入った。

新小岩保線分会からの発言

「西船橋保線技術センターでは社員代表選で『労働条件の改善に繋げる為に分会書記長に立候補を』ということで選挙となった。有権者25名中、国労4・社友会20・白票1で負けた。結果を受け反省し、次回に繋げる。次に、エルダー出向に出されている仲間は6人から4人に減らされ、年休が取れない中で仕事を(物流)。『働き方改革』で超勤がつかない変形勤務に。連夜の連続夜業(テテヒテヒ)が当たり前(軌道会社)。こういった劣悪な条件下で働かされている。団体交渉で追及してほしい。活動方針案の中に『本

体雇用を第一希望に面談で訴えていきましょー！』という方針案を見て元気になった」と発言された。

他の職場からは

「多くの若手は線路閉鎖などの責任者としてようやく一本立ちし、後輩に教えられるレベルになったら転勤。その繰り返しだ」「技術継承が出来ない」と発言があった。「今の労働条件では『働きづらい、人間関係も含めてこの職場はもういいや』と追い込まれている背景を改善させる為にも、会社側を攻めていく」「発令は2週間前である。その間に苦情処理の制度がある。会社側に対し、『今までの2週間はどうなった』と追及すべきだ」と応答があった。海後事務長が「出された意見を大切に常任委員会で討論し、改善に向ける」と集約され、最後に森田工務協議長の「団結頑張りよう！」で終了した。



長い間、大変ご苦労様でした

2月末で定年退職した東鉄工業に出向中の鈴木富智雄さんの永年表彰が、1月末で定年退職され、2月より千葉保線技術センターでエルダー社員として活躍されている田中清和さんと共に、井村地本委員長より感謝状が贈られた。鈴木さんは、3月より引き続きエルダー社員として現職場で仕事を。健康第一で共に頑張りましょう！

